

ロゼ

文化情報誌 ロゼ

Art information of Fuji city Vol.23
SPRING
Culture Magazine ROSE 1998

春号



vol.23



ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 1998年4月発行(第23号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0931 富士市蓼原1307番地の8 TEL.(0545)60-2510(代)
企画・編集・制作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 アドスペース エービック株式会社



5th Anniversary Program

平成10年度ロゼシアターは開館5周年を迎えます。

オープン以来毎年30公演を超える自主事業と、多彩なこれまで5年間文化活動を積み重ね、皆様に多くの感動2000年を前にした本年、より良い舞台芸術を提供し新記念事業を企画いたします。

市民による催しが行われてきました。をお届けしてきたロゼシアター。たなる「感動との出会い」を求め、ここに開館5周年



ロゼ史上に残る

大公演の数々

一九九三年十一月一日、大ホールにてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の響きで、音楽ホールとして幕開けしたロゼシアターも五年を経過。演奏家・音楽専門家から音・残響の良いホールとして高い評価を受け、全国の音楽ホールの一つとして知られるようになりました。内外のオーケストラが私たちにその響きを楽しませてくれた中で、毎年二回の公演を数える新日本フィルハーモニー交響楽団は、どこよりロゼのホールを知り尽くした楽団といえます。「弦が響くと管も高鳴る」、演奏者のことばどおりオーケストラの迫力を聴かせてくれます。

新日本フィルハーモニー交響楽団 指揮 小澤征爾

◆5月12日(火)

新日本フィルは今年マエストロに世界の小澤征爾を迎えます。クラシックファンならずとも待望の公演であり、チケットは発売後数日で完売という盛況ぶり。プログラムはドビュッシー歌劇「ペレアスとメリザンド」(抜粋)、ストラヴィンスキーバレエ音楽「春の祭典」とまさにロゼの記録に残る一大公演となるでしょう。公演を前にロゼシアターの出演では先輩である小澤幹雄氏に兄征爾氏の近況を伝えていただきました。(次頁)



ロゼの空に鳥が翔る日
市民創作ミュージカル 新・曾我物語
「名残りの小袖」
◆11月1日(日)・3日(火)



格調高い伝統のオペラ座がロゼの五周年を華やかに祝う
ハンガリー国立歌劇場歌劇「椿姫」 ◆10月17日(土)
一八八四年創設以来、マラーやニキシュが常任を務め、クライバー、カラヤンなどが指揮台に立つハンガリー国立歌劇場は、東欧を代表するオペラ座としてその存在を誇示しています。初来日の舞台上に繰り広げられる「椿姫」は、イタリアオペラ中人気ナンバーワンを誇っています。贅をつくした豪華な舞台装置と絢爛たる衣装を、そっくりそのままの引越し公演となります。ファンはもちろん、初めて観るオペラとしても絶好の演目といえます。

ロゼの音響が生きるFM放送ライブ録音
NHK FMシンフォニーコンサート公開録音
◆5月24日(日)
臨場感溢れるロゼシアターでのオーケストラサウンドをライブとFM(六月十四日放送予定)で二倍お楽しみください。管弦楽は東京フィルハーモニー交響楽団、指揮は本名徹二、ソリストにはヴァイオリンの藤原浜雄、ヴィオラに川崎雅夫の各氏を迎え、モーツァルト交響曲第三十一番二長調「バリ」、協奏交響曲変ホ長調、ハイドゥン交響曲第一〇番ト長調「軍隊」を演奏します。

オープン五周年を飾るメインイベントとして企画された、市民による市民手作りミュージカル、堂々の公演。
曾我物語は建久四年(一九三三年)に源頼朝の富士の巻狩りの際に起こった富士市に残る歴史的事実です。
ミュージカルでは、五郎・十郎との兄弟愛、母・満江との親子愛、虎御前との恋愛をテーマに展開されるドラマティック・ラブストーリーです。
若者二人が母と恋人に別れを告げ仇討ちに向かう、恋人はあとを追いつ、母は自分の小袖を手渡す。小袖が鳥となって空を翔るとき、感動のクライマックスをむかえる。全二幕十二場、踊り・歌う市民のすばらしき舞台をお楽しみください。

生粋のバリ管サウンズがロゼに響く プレイトル指揮 国立バリ管弦楽団

◆11月12日(火)

一九七〇年の日本公演で、名人芸といわれた演奏はいまでも日本の演奏史の二つに残っています。今回二十八年ぶりに生粋のフランス人名指揮者ジョルジュ・プレイトルとコンビを組み、その響きは、まさに「世界の管」の名の如く私たちに楽しませてくれるでしょう。プログラムもM・ラヴェル編曲による「展覧会の絵」「ボレロ」ドビュッシーの「海」とインバクトの強いオールフランスプログラムです。

ロゼの先輩 「やわらかな兄征爾」は今

小澤 幹雄

(司会者・放送タレント・エッセイスト)

長野オリンピックの開会式で五大大陸を結ぶベートーヴェンの「歓喜の歌」を指揮したあと、長野県内で行われた一連のコンサートを終えた兄征爾は、二月の末都内のホテルで開かれたおふくろの卒寿を祝う内輪の会にスキー焼けした元気な顔でやってきた。

我々息子や孫をはじめ姪、いとこなどの近親の者、それにおふくろが三十年も付き合っている生け花の古い仲間たちが集まったが、僕たち兄弟三人に甥でニューミュージックの世界で活躍するオザケンこと健二が加わって余興で男声四重唱を聞かせたりして楽しい水入らずのひと時を過ごした。ポストン交響楽団の音楽監督に就任して今年で二十五年目を迎える征爾は、家族を日本に残してポストンでは単身赴任(?)の生活をしているが、日本にもマメに帰ってきて五月にはオペラ、九月は松本でサイトウ・キネン・フェスティバル、それに新日本フィルの定期、時にはポストン響を連れてくることもある。

桐朋学園で学び今や世界で活躍するそうそうたる演奏家が毎年九月に長野県松本に集まり征爾の指揮でオペラやコンサートを開くサイトウ・キネン・フェスティバルは、今年で七回目を迎える。今征爾が最も力を注いでいるのがこのフェスティバルで

いつだったか「オレは今寝ても覚めてもサイトウ・キネンだよ」と目を輝かせていた。

信州には昔から縁があり、斎藤秀雄先生の指導でかつて桐朋の学生オーケストラが合宿したのが軽井沢や志賀高原、征爾一家が近年スキーに通っている奥志賀では親しくなった地元の人たちに頼まれ毎年夏「森のコンサート」をやっている。今回オリンピックにひと肌脱いだのも、志賀の山男たちとのふれ合いからだった。

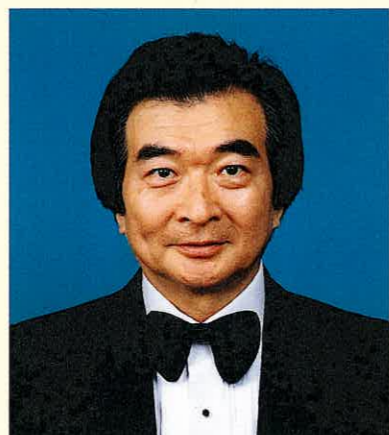
ところで、海外から第一級の歌い手を招いて公演する五月のオペラは今年の「ペレアスとメリザンド」で十回目。僕は昨年の「魔笛」でパペーノを歌ったマーク・オズワルドの軽妙な演技が忘れられないが、その彼が今回ロゼシアターでは、主役ペレアスを歌うのが楽しみである。

二十年ほど前、早大オーケストラと征爾がテレビ番組「オーケストラがやってきた」で「春の祭典」をやったことがある。初演(一九三三年)ではヤジと怒号で大混乱となった異端の曲ハルサイも、今や大学オケが得意にする古典となったが、何度聴いても面白い雑で官能的でなんとなくイイ気持ちにさせられる名曲であることは確かである。

四年前の春コンサートで司会役で僕が四回も出演したロゼシアターに、今度征爾が初登場する。ロゼでは僕が先輩である。

PROFILE

早稲田大学文学部を経て東宝演劇部に入社、多くの舞台に出演。その後、フリーとなりNHK「勝海舟」などにレギュラー出演。テレビのワイドショー「さわやかトゥデイ」「やじうまワイド」のキャスター、CM出演のほかFM放送「小澤幹雄のやわらかクラシック」が話題となる。平成6年1月～4月、ロゼシアター主催のイブニングコンサート・アフタヌーンコンサート「やわらかクラシック」のパーソナリティーとして出演する。現在では司会、エッセイスト、音楽ジャーナリストとして活躍する。著書に「やわらかな兄征爾」(芸術現代社)、「小澤幹雄のやわらかクラシック」(音楽之友社)、「松本にブラームスが流れた日」(新潮社)などがある。



Mikiko OZAWA

1998 PROGRAM REVIEW

文化・芸術の創造者たちが、たゆまぬ修練の蓄積から、その一瞬に無限のエネルギーを注ぎ込む。舞台を囲む観客とアーティストは時空を越えて一つの感動を共有する。

1998年 すばらしき出演者たちにブラボー

平成十年度自主事業のラインナップをご紹介します

● 新年度事業はロゼ公演三度目の「ウィーン少年合唱団」(四月十四日)公演からスタートしました。はじめての試みとして地元「富士市少年少女合唱団」とのジョイントプログラムが生まれ、富士市とウィーンとの音楽を通じた友好の輪が広がりました。

● すっかりお馴染みとなった白石加代子さんと市村正親さんによる二人芝居「ミザリー」(四月二十六日)は早々にチケット完売。ロゼと白石さんとのライフワーク、「百物語」第四夜(平成十二年二月九日)も楽しみです。

● バレエ・ダンス人口の多い富士市において開催するモダンバレエ公演「石井漢記念創作舞踊団「展覧会の絵」」(五月十六日)は富士市出身者二人を含め、創作バレエの新しい世界を観せてくれます。

● 毎年多くの若き音楽家を支援するMAYコンサート、七回を数える今回は七名の新人音楽家が出演いたします。「98 MAYコンサート」(五月三十一日)

● さらに来年三月の「MAYコンサート」スペシャルは、これまで出演された演奏家の皆さんに共演していただき、ロゼ独自のプログラムを計画しています。

● ロゼシアターホールには四台のフルコンサートピアノがあり、それはロゼの音でもあります。そのピアノを選定していただいた

戸川 純



異色・異彩の舞台。よけいなものは何もない芝居に浸ってください。

ダルムシュタット・アンサンブル (昨年の公演)



● 本年ロゼのテーマに小ホールを中心にした室内楽・軽音楽の普及があります。いつでも気軽に音楽を楽しめるホールにと、アフタヌーンコンサートをはじめとしたソロや小編成の魅力を感じてください。昨年好評をいただいた「ダルムシュタット・アンサンブル」(七月二十四日)のアンコール公演。ドイツで活躍するチェロの岩本忠生さん、ヴィオラの瀬尾麗さんを軸としたアンサンブルは、そのファミリー的な人柄と演奏で二度聴いたらまた聴きたくなる魅力をもっています。昨年のシューベルトプログラムに続くモーツァルト・ベートーヴェンプログラムをご堪能ください。

● ロゼアフタヌーンコンサートは静岡の演奏家の出演です。「須川展也サクソフオーンコンサート」(九月二十六日)、須川さんは浜松出身で国際的に脚光を浴びるクラシック・サクソフォーンの第一人者です。独

神谷郁代さんと堀江真理子さん出演のロゼイヴニングコンサート「ロゼのピアノものがたり」神谷郁代(六月十二日)・堀江真理子(七月三日)は、お二人が最も情熱を傾けている作品群を披露していただ



神谷郁代

堀江真理子



きます。ピアニストには必見の価値ある公演です。

● 家族そろって音楽会にお出掛けください。昭和三十年の結成以来男性コーラスグループとして活躍する「デュークエイセスコンサート」(六月二十八日)はご家族で楽しめます。日本の叙情溢れる歌詞と爽やかなコーラス、誰もが聴いたあの歌・この歌の数々で日曜日午後ひとときをおくつろぎください。

特で優美な響きと卓抜なテクニックは音楽器の新しい世界を拓きます。

「福田進」ギターコンサート(平成十二年一月十日)、静岡と欧米を行き来しながら大活躍の名ギタリスト福田進二さんは、現在世界的に注目を集めています。オーケストラ、室内楽をはじめジャズ・フュージョンまで、ジャンルを超えた驚異的な演奏は新世代のプレイヤーといえます。



須川 展也

福田 進一



● 年の瀬、軽快なラテンジャズでお過ごしください。デビット・マッシュューズの新鮮なサウンド渦巻く画期的なラテンジャズ、躍動するリズムときらめくブラス・セッション、そしてニューヨークのトップジャズメンが華麗なソロを聴かせます。

「デビット・マッシュューズ&ザ・スーパードテン・ジャズ・オーケストラ」(十二月十九日)は、平成十年を締めくくるホットな公演となります。

● 爽やかなビリー・ウォンサウンド。アメリカンオールドファッションに浸る、サマータイムライイトコンサート「ビリー・ウォン楽団」(七月十九日)を心ゆくまでお楽しみください。時代を越えて愛されつづける楽団、そのサウンドは今若いOLやサラリーマンにまでファンを広げています。夏本番をむかえる夜、爽快ムード溢れるサマーサウンドでお過ごしください。



渡辺 徹

● TVドラマ「太陽にほえろ」のラガー、神原郁恵さんのご亭主といえ、ご存じ渡辺徹さん。クラシック音楽のパーソナリティーをつとめる、「渡辺徹のおしゃべり音楽館」(八月二十二日)はこれまでになくクラシック音楽会です。「僕は難しいクラシックは好きではありません。でも自然に聞こえる音楽は気持ちの良いものです」と語る徹さん。楽しいおしゃべりをまじえての音楽館、おもしろいこと受け合いです。次回「ロゼ」夏号では渡辺徹さんのインタビューを掲載いたします。

● 現代のアイドルは強い個性が売り物。元祖個性派女優戸川純がロゼの舞台に登場します。「戸川純一人芝居「マリイヴオン」」(九月十二日)は宮沢賢治の原作を彼女が脚色し、すべて一人で演じます。戸川純の純粋性に宮沢ワールドを仮託した



デビットマッシュューズ

● 日本で今話題のアンサンブル、「ハレ!」ストリングス・クアルテット(平成十二年二月十二日)、ヴァイオリンの漆畑啓子さ



漆畑 啓子



向山 佳絵子

ん篠崎史紀さん、ヴィオラの豊嶋泰嗣さん、チェロの向山佳絵子さんは現在日本の若手演奏家では、人気・実力共にトップクラスのメンバーです。その名手が集まり独自の音を生み、演奏を重ねる度に磨かれてゆく。若さ溢れるダイナミックなサウンドと絶妙な演奏に無限の音楽の世界を感じます。



篠崎 史紀



豊嶋 泰嗣



あの瞬間の感動をもう一度...

1997・DEC. - 1998・MAR. 平成9年度後期自主事業(12月から3月まで)を、それぞれの催物に寄せられたアンケートをもとにフラッシュバックしてみました。(WAKU WAKU通りや本誌中で扱った公演は割愛してあります。)※サインは出演者からいただいたものです。

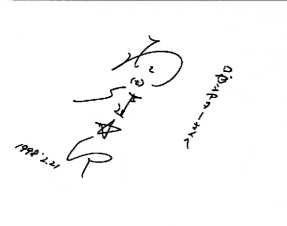


羽田健太郎 & 新星ポップスオーケストラ

2月21日(土)

VOICE

- 肩のこりを感じないオーケストラを聴くことができ、うれしく思います。羽田さんのおしゃべりもしゃれっけがあり、曲もユーモラスで気軽に飲茶(ヤムチャ)を聴くこと(いや、食べること)ができました。(富士市31歳女性)
- 今日一日の楽しかった出来事、夕焼けに色づいた富士山が霧に浮かんでいる様子など、いい気分が思い出すことができました。(高知県23歳女性)



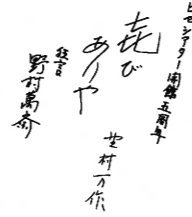
新春能公演

1月25日(日)

お話・津村禮次郎

VOICE

- 生の舞台を拝見し、日本古来の芸能をととても美しく思いました。(富士市53歳女性)
- 地方ではなかなか観ることができない能・狂言を楽しみにしていました。一流の人たちの演技・豪華な衣装、素晴らしかったです。(富士市50歳女性)



林家こん平・三遊亭小遊三 落語二人会

3月21日(土)

VOICE

- 示唆的で楽しく、久しぶりに涙をしばりながら笑い転げ、寿命が延びるような命の洗たくをさせてもらいました。(富士市50歳女性)
- 人を笑わせる事は大変な事。人を楽しませてくれることは有難いことです。(富士宮市60歳女性)



ふじの芸術家たち
山仲久美子・谷本和身 造形展
2月7日(土)~22日(日)

VOICE

- お二人ともシンプルな素材と素朴な色調のなかで、とても暖かみのある奥深い表現が素敵でした。やさしく包まれるようにつつましい力を感じました。(富士市18歳女性)

VOICE

- 照明・空間の洗練された配置、雰囲気は最高に良かったです。作者の思い通り伝わったと思います。これだけ作品に対し神経のいきどついた造形展はいままでなかったです。(静岡市57歳男性)

EXHIBITION 展示

平成9年度静岡県芸術祭
美術部門優秀作品展
12月13日(土)~23日(火)

VOICE

- 解放感あふれる個性的かつ色彩感に富んだ諸作品は、迫力作ぞろいでとても楽しませていただきました。(富士宮市48歳女性)

VOICE

- 見ごたえのある作品ばかりで良かった。手軽に芸術にふれられて楽しめました。(富士市31歳男性)

FLASH BACK Event Report



ロシアアフタヌーンコンサート

第1回 東京ギターカルテット

12月7日(日)

午後6時の弦楽奏のひととき

第2回 松野弘明ヴァイオリンコンサート

1月18日(日)



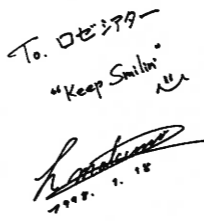
VOICE

- クラシックギターの限らない音楽に魅了されました。ギターファンならずとも楽しめるので客層が広がることを期待します。(静岡市29歳女性)
- 4本のギターだけど、時として、オーケストラの様に聴こえてしまう迫力がたまらないです。(富士宮市19歳女性)
- ソロもいいのですが、カルテットならではのさまざまな技法を近くで見ながら堪能しました。(富士市50歳女性)



VOICE

- ヴァイオリンの音が心の奥底まで染み込んでいきました。ピアノとの息の合った演奏ぶり、未来あるお二人の鮮度の良さ、そして重厚さに圧倒されました。(富士市57歳女性)
- とても素晴らしかった。胸がスカッとしたり、キュンとしたりいろいろなヴァイオリンの魅力が味わえました。(横浜市30歳女性)



米良美一カウンター・テナー・リサイタル

1月17日(土)



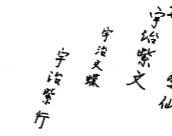
VOICE

- CDを聴く毎日が続き、待ちに待ちやっこの日を迎えました。一声を聴いたとたん、うれし涙が出そうになりました。(富士宮市50歳女性)
- とても深みのあるきれいな声で、ロマンティック街道を歩きながらヨーロッパの古城をめぐっているような...そんな世界に浸っていました。(沼津市40歳女性)
- 天から降りてきた歌声ですね。優しいやわらかい歌声! 素晴らしい才能の持ち主ですね。(富士川町44歳女性)



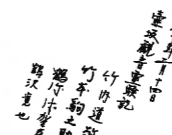
VOICE

- 一中節の由来、楽しく学ばせていただきました。三味線のお話や実演も巧みでした。(富士市64歳女性)
- 新春の気分を満喫しました。(富士宮市55歳女性)



VOICE

- 義太夫というもの、まともには聴いたのは初めて。物語が解りやすく無駄なく美しい。(富士市70歳男性)
- どんどん引き込まれ、1時間あっという間でした。日本文化素晴らしいですね。(富士市36歳女性)



VOICE

- 普段見ることのできない部分を見せていただいて、本当に楽しかったと思います。(富士宮市53歳女性)
- 歌舞伎・演劇に限らず、音による効果というのは大きいと思います。鳴り物によりいろいろな想像が楽しめました。(富士市63歳男性)



歌舞伎への誘い

12月6日(土)

講師・水落潔

邦楽への誘い

お話・竹内道敬

(第1回) 中節

1月17日(土)

(第2回) 義太夫節

2月14日(土)

(第3回) 歌舞伎鳴物

3月14日(土)

シリーズ・3
市民創作ミュージカル

制作スタッフインタビュー

新・曾我物語〜名残りの小袖〜

十一月一日に開催するロゼシアター開館五周年記念事業、市民創作ミュージカル「新・曾我物語〜名残りの小袖〜」の本格的な練習が四月から始まりました。今回は、四月五日の課題練習中間発表会も終了し、いよいよ本番に向けて意気込みをみせる制作スタッフの方々に抱負をうかがいました。

作曲 海田次朗

日本の言葉と音楽を組み合わせる魅力

これまで私はミュージシャンとしてミュージカルに携わることはありませんでしたが、今回のようにはじめから作曲担当として参加するのは初めてです。和物ミュージカルとあり、当初苦労するのではないかと思っていました。脚本を読みそれぞれのシーンを具体的にイメージすると意外にスラスラ書くことができ、今は日本語とメロディを組み合わせる面白さを感じています。出演者もオーディションの時に比べて歌も踊りも格段の差があります。私も曲を思いきって自由に書けると感じました。本番



演 (演技部門) 鳥居 章

出演者と制作者が一つになってできる芝居

中間発表会を思ったよりうまくできました。出演者たちも楽しんでやっています。これから、チームプレイができ、目標を持つ

演 (歌唱部門) 辻村典枝

舞台の上ではみんなスター！これからが楽しみです

らやつてきた練習から変わっていきます。出演者同志もまとまっていますし、上手な人を手本に稽古していますから、刺激しながら自分たちを高めています。キャストイングが決まり主役、脇役、その他大勢ありますが、一人一人の役があつての芝居です。百人の芝居が一人欠けると幕が開きません。ですからそれぞれの役を大切にしたいと思っています。私たちは野球の監督と同じです。ホームランを打たないバッターに、バンドのサインを出すかもしれないが、チームのため、勝つ(成功させる)ため出演者に無理を言うことありません。十一月一日まで、めげることなく全員で感動を味わいたいですね。



皆、声が出るようになり体も動くようになりました。欲をいうともう少し笑顔がほしいかな。ここに集まった人は、自分たちでテンションを上げるのが上手ですね。練習を重ねる度に上達していきます。ミュージカルの内容は日本の時代背景ですが、現代人が演じるので現代の子らしく、のびのびと声を出してほしいですね。みんな輝



演 (振付部門) 泉 裕紀

日本の美しい文化を見直したい

日本舞踊の古典の振付は決まっていますが、今回は創作であり台本ができ、曲が決まってきたから振付が要求されます。洋物と違った日本の良いところ、日本らしさが表現できればと思います。若い人達は外国の文化やブームをすぐに受け入れ、

自分たちでそれを楽しんでいます。でも、日本の文化の良いところが数多くありますから、このミュージカルを通して良さを実感してもらいたいです。出演者は自分の力を一杯出して、もう一人の自分を発見してほしいですね。出会った大切な仲間と一緒に、きっと素晴らしい舞台になると思っています。

日本で確信をもったテンポ理論

音楽学者グレート・ヴェーマイヤー女史

内藤 閑喜

現在の在り方に疑問を感じ果して本来はどうであったかを追究している人がいる。グレート・ヴェーマイヤー女史(以下W女史)も音楽分野でのそんな一人だ。W女史は一九八二年から二年間武蔵野音大客員教授を務めた。その体験から日本のピアノ教育について考察し論文として発表した。

「クラシック音楽の集中豪雨」
日本のピアノ教育について(抄訳)

「約二十人の試験官がいる空の大ホールで四百人のピアノ科学生の卒業試験は行なわれた。一人一分で次々と名曲の抜粋が各々六回、二十回の頻度で四日間スコールのように降り注いだ。競争意識を煽り「練習はすればするほど良い」をモットーに待魂で学生は熱心に練習する。

オリンピックに象徴されるスポーツのごとく速く、大きな音で、ミスの無い完璧な演奏を目指す。タイプを打つようなスタイル



Frau Dr. Grete Wehmeyer (グレート・ヴェーマイヤー女史)

速すぎる古典音楽の演奏テンポ

W女史の本来の批判対象は今日の音楽の在り方そのもので、日本の事情は世界的傾向という。日本人はその勤勉さで経済発展に成功したように音楽分野でも同じ形で目的を達成した。従って同女史は問題点を明確にしてくれた日本に感謝しているという。タルスマの著書をはじめて手にしたのも日本であった。「当時の作



曲家が求めたものは果たして今日のような演奏であったらどうか」という疑問は以前からあったが、文献を研究する過程でこの原因はテンポに起因するところが大きいとの結論に至る。産業革命後、特に鉄道の発達による生活観の変化とメトロノームの間違った取り扱いにより演奏テンポは次第に速くなった。当時作曲家自身もこの傾向に警鐘を与えている例は多い。

広がる「テンポ・ジュスト運動」

人が機械化による成果と同じものを目指して努力する結果、完璧なメカニクスの演奏家が輩出され続けている。今とは違ったアーティキュレーション、アクセント、音



ヴィレム・レッツェ・タルスマ氏とヴェーマイヤー女史

マンドリン製作・演奏家
内藤 閑喜

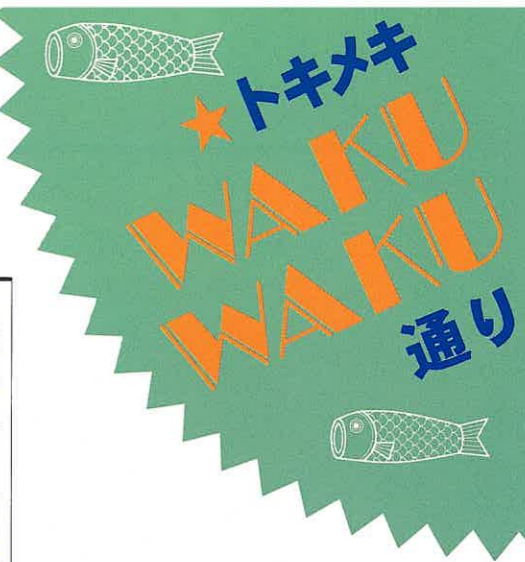
Yasuyoshi Naitoh PROFILE
富士市出身、現在ドイツ・ケルン市在住。海外のさまざまな文化情報を新しい切り口で取材し、レポートを送っていただいています。

(1)ケルン出身のピアノ、音楽学者、演奏、講演、放送、著作で活動。論文、出版書籍多数。このうち「プレスティジオン」(ケルン・エッセイ)は音楽の女史より邦訳出版。
(2)一九八四以来タルスマのテンポ理論を研究し、古典音楽のテンポ問題に取り組み。サライ研究は有名。最近はワグナー研究に従事。
(3)「ワグナー・キーゼラー記念論文集」(一九八四年十月三日)オランダの音楽学者。一九八〇年「古典音楽の再生」でメトロノームの取り間違いに関する研究を発表。歌で強烈な反響が起り、各地で実験的集団が誕生した。
(4)メトロノームの元の形。振り子はタクトの動きが往復で拍とされていたのが現在は往復で「拍」となる。

ROSE THEATRE・EVENT CHECK LIST
1998年5月・6月・7月の催し物のご案内
財団自主事業をはじめ、一般貸館事業を含めたスケジュールです。

INFORMATION

EVENT Report



課題練習発表会
4月5日(日)

今年十一月一日に、ロゼシアターオープン五周年記念事業として開催する市民創作ミュージカル「新・曾我物語」名残りの小袖」。

十一月の公演の前に、出演者を実際の舞台を経験してもらい、市民への練習成果の披露とキャスト配役の選考を兼ねてのプレ公演が行われました。出演者は昨年十月、オーディションを通過した約百名。小学校一年生から六〇歳までのバラエティに富んだメンバーです。

プログラムは、三ヶ月間練習してきた歌、朗読劇、ダンス、創作舞踊、ミュージカルなどで、出演者は緊張の中にも舞台を楽しんでる様子で、一人一人が自分自身を思う存分アピールしていました。

フィナーレでは、「新・曾我物語」名残りの小袖」のメインテーマ「鳥は翔るの歌」を全員で合唱し、今までの課題練習の成果への満足感と本番に向けての決意の高まりが感じられました。

キャスト発表後は、いよいよ本番に向けての本格的な歌やダンスの練習が始まります。



小学生によるドレミの歌 (オリジナル振付)



A・Dカミュー作 朗読劇「LOVE LETTERS」



小学生による朗読「鶴の恩返し」



中学生以上成人女性による「扉の舞」

5 MAY

日	曜日	ホール	イベント
3	日	中	第12回信友会歌謡祭
		小	第12回ピアノ発表会(大石知香子)
4	月	中	元吉原ウインドアンサンブル第1回定期演奏会
		小	ピアノ発表会(川嶋伸子)
5	火	中	聖明断酒会10周年・聖明同窓会7周年記念大会
		小	リトルピアノコンサート(宇佐美照美)
9	土	中	秋山バレエスクール富士地区研究生発表会
		小	★青木裕子トークコンサートVOL.4
10	日	小	カシュ・カシュ・ピアノデュオコンサート
11	月	小	もっともっと伸びる子どもの能力
12	火	大	新日本フィルハーモニー交響楽団(指揮:小澤征爾)
14	木	大	富士市立吉原小学校音楽鑑賞会
15	金	小	富士市生涯学習推進委員会総会
		中	石井漢記念創作舞踊団公演
16	土	小	アンサンブルのタペピアノデュオとヴォーカルアンサンブル
		大	にはな会
17	日	中	第22回富士市コーラスフェスティバル
		小	ピアノ発表会(石井志保)
19	火	小	富士市民生児童委員協議会全員研修会
		大	講演と映画のタペ「人・自然にやさしい環境作り」
20	水	中	教育講演会
		小	第36回富士環境衛生自治推進協会総会
22	金	小	平成11年3月新規学校卒業予定者求人説明会
23	土	小	ピアノ・エレクトーン発表会(窪田早百合)
		大	NHK FMシンフォニーコンサート
24	日	中	富士マジッククラブ第10回記念発表会
		小	リトルコンサート(吉野美和子)
28	木	小	富士市町内会連合会総会
		大	★明治大学マンドリン倶楽部演奏会
31	日	中	富士市日本舞踊連盟発表会
		小	'98MAYコンサート

※一般貸出事業については、平成10年4月上旬までの受付分です。各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。
※ロゼシアター主催事業★ロゼチケットセンターでもチケット扱う予定

展示室のご案内

展示期間	展示室	催事
4/29~5/10	一般・特別	朝日陶芸展
5/20~5/24	一般・特別	富士市美術協会50周年記念展
5/28~6/7	一般・特別	ロゼシアターオープン5周年記念「ホスター」写真展
6/10~14	一般	第5回パッチワークキルトハウスヌー作品展
6/10~14	特別	松野秀雄作陶展
6/17~21	一般	第8回富士能面展
6/17~21	一般	公民館自主講座グループ総合写真展

展示期間	展示室	催事
6/25~28	一般・特別	第32回富士市展 第1期
7/4~5	一般	富士市華道連盟いけばな展
7/8~12	一般・特別	市民創作ミュージカル特別展示
7/16~19	一般・特別	第32回富士市展 第2期
7/25~26	一般・特別	'98花のシンフォニー展
7/27~8/2	特別	食中毒防止ポスター展
7/27~8/2	一般	富士市退職職職員趣味展

ロゼシアターミュージカルコンサート
ロゼのピアノものがたり
第一夜 神谷郁代 六月十日(金)
第二夜 堀江真理子 七月三日(金)

イベントガイド

●開場/18:30
●開演/19:00
●入場料/一般3,000円・学生1,500円(全席指)
2夜セット券5,400円



楽器(表紙)インタビュー
●マリリン・ランド王様
●勝山ゆりかさん(本名:十鳥ゆりか) 富士出身 川崎在住

打楽器を中心に富士と東京で子供達を相手に音楽指導を行う一方、十鳥ゆりかさんのマリリン・テュオの演奏活動は国内・ヨーロッパで好評を得ています。

マリリンの音には木の温もりが感じられ何度聴いても飽きない音です。演奏者の感情がそのまま音に出るような楽器で、とにかく好きなんです。マリリンの音は、限らない魅力とゆりかさんの夢は大きく広がります。

ロゼネット

●市民創作ミュージカルにむけて
十一月の創作ミュージカルまであと半年。先日(中間発表会)では、出演者・スタッフともに本番に向けての確かな手応えをつかむことができた。これからは、本番のキャストも決まり、さらに厳しいレッスンを重ねていくことだろう。初心を忘れず、気を引き締め十一月まで駆け抜けよう！(倉馬)

●一枚のチケットに心を込めて
ついでの間までの学生気分はすつかり飛んでしま、今は毎日初めての経験と戸惑いの連続です。二枚のチケット「簡単そうに思っていました」が、いざ振ってみると注意深く扱わなければ大変なことになりそう。良い先輩スタッフと共に一枚でも多くお客様に心を込めたチケットをお渡しできればと思っています。(アキ)

チケットのお申し込み・お問い合わせは

ロゼ・チケットセンター
☎0545-60-2500 受付時間 9:00~19:00

■すみや 富士本町店 ☎(0545)63-2233 富士中央町 ☎(0545)60-4567 ■富士市民センター ☎(0545)61-8262 ■ラ・ホール富士 ☎(0545)53-4300	■チケットセ/沼津 ☎(0559)61-2405 ■カワセ書店 ■鷹岡店 ☎(0545)71-9592 ■富士宮・宮原店 ☎(0544)24-7160 ■タンザワ楽器富士支店 ☎(0545)52-1586	■ユニサービスカウンター 吉原店 ☎(0559)51-9027(代) ■富士宮大宮店 ☎(0544)24-0255(代) ■豊原駅前ビル ☎(0545)51-5227 ■三島(gアイジ) ☎(0559)73-3003
---	--	--

☆ロゼシアターホームページアドレス <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/~rose/> e-mail rose@city.fuji.shizuoka.jp
みなさんとロゼを結ぶホットライン! イベント情報・館内施設・トピックなど盛りだくさんの内容です。

ロゼシアターオープン5周年記念事業 市民創作ミュージカル

ロゼシアターオープン5周年記念事業として開催する市民創作ミュージカル「新・曾我物語」名残りの小袖」。

十一月の公演の前に、出演者を実際の舞台を経験してもらい、市民への練習成果の披露とキャスト配役の選考を兼ねてのプレ公演が行われました。出演者は昨年十月、オーディションを通過した約百名。小学校一年生から六〇歳までのバラエティに富んだメンバーです。

プログラムは、三ヶ月間練習してきた歌、朗読劇、ダンス、創作舞踊、ミュージカルなどで、出演者は緊張の中にも舞台を楽しんでる様子で、一人一人が自分自身を思う存分アピールしていました。

フィナーレでは、「新・曾我物語」名残りの小袖」のメインテーマ「鳥は翔るの歌」を全員で合唱し、今までの課題練習の成果への満足感と本番に向けての決意の高まりが感じられました。

キャスト発表後は、いよいよ本番に向けての本格的な歌やダンスの練習が始まります。



中学生以上成人女性による「扉の舞」



小学生による朗読「鶴の恩返し」



A・Dカミュー作 朗読劇「LOVE LETTERS」



中学生以上成人男女による「暴れん坊メーダン」



ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」や「マイフェアレディ」等のオムニバス版「WEST・SIDEっばいSTORY」

ロゴマーク誕生

市民創作ミュージカル「新・曾我物語」名残りの小袖」ロゴマーク誕生

ロゴマークは、出演者から募集し、イメージが一番多かった「富士山」と「鳥」をモチーフに、市民創作ミュージカル運営委員会が考案したものです。専門家、デザイナーの手を借りない、まさに市民手作りのオリジナルロゴマークとなりました。

テレホンカード&チケットプレゼント当選者発表

平成五年十一月一日の日曜開館以来今年一月で会館利用者が二〇〇万人となりました。そこで利用者の皆様に感謝の気持ちを伝えるため、記念オリジナルテレホンカードとチケットプレゼントを行い、三月十日に抽選が行われ、以下の方々が当選しました。

おめでとうございます。

抽選をおこなう小野常務理事(右)と鈴木恵智三事務局長(中央)

◆テレホンカード当選者(10名)
池田美白子 上杉三春 遠藤富士美
小野ひと美 金谷康弘 ほか十名

◆チケット当選者(10名)
井出 靖 ほか四五名

◆オリジナルテレホンカードプレゼント当選者(10名)
青山孝章 若沢恵子 畔高金吾 伊藤栄次
井出 靖 ほか四五名

◆テレホンカード当選者(10名)
秋山登志夫 伊藤邦義 薄衣良又 後閑清之助
杉山あい子 ほか十名

★たくさんのご応募ありがとうございました。